

## 研究結果

貴基金の助成を、2007年3月に頂きましてから、以下のように研究結果が出来ましたので、報告致します。

(1) 2007年3月から一年の間、大川周明と近代中国、具体的には日中戦争期や太平洋戦争期における大川の政治思想や中国観の変遷と特質について、日本語論文と中国語論文を、各一篇それぞれ日中両国の学術誌に公表しました。

(2) 「大川周明と近代中国」という課題を完成させて一冊の著書にまとめ、日本での日本語出版を達成しました。元々、一年の研究期間があれば、出版は十分達成可能な目標だと予想されていましたが、途中から出版社の注文が無い込んだので、加速度的に作業を進めた結果、2007の秋に速めに目標の拙著を出版しました。

(3) 以上の成果が達成されたことによって、以下のようなインパクトや効果が得られていると思われます。

先ず基本的には、「大川周明と近代中国」という数多くの日中近代史研究者に興味を抱かれた学術的謎を解き、大川研究自体を大いに前進させたと思います。次は具体的に言えば、今まであまり研究されていない、大川とその周辺にある日本側・中国側の「関連重要人物」との係わり合い、大川の政治思想と国際観・中国認識との関連性を明らかにすることができたと思います。

この業績によって、拙著は日本僑報社から「第五回華人学術奨」をもらいました。東京大学名誉教授の平川佑弘先生も熊本新聞での書評を書いてくださいました。また、加藤紘一や猪口邦子、鶴保庸介や前原誠一らをはじめとするお知り合いの日本政治家や、北岡伸一や宇野重昭、橋爪大三郎や松本健一ら学者に献本しました。勿論、中国側の著名な歴史研究者にも数多く贈呈しました。よってこのケーススタディを通じて近代日中関係の特質やメカニズムの一端を解明し、日中両国の関係筋に認められるような成果をもっていわゆる歴史問題解決のための公約数的糸口を見出し、歴史的和解のための架橋機能を、自分なりに果たしてきたと思います。

## 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等) :

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) :

- ① 「大東亜戦争中における大川周明の思想戦」、呉懷中、『同志社法学』2007年7月号、<日本語論文>
- ② 「大川周明在太平洋戦争期間的活動」、呉懷中、『日本研究』17号、2007年11月、学苑出版社。<中国語論文>

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等) :

『大川周明と近代中国』(日本語)、呉懷中、日本報社、2007年9月版